

# 世

## 世界IoT (Internet of Things) 市場予測を発表

世界IoT市場は、2013年の1兆3千億ドルから、2020年には3兆400億ドルに拡大  
2020年のIoT向けインテリジェンスシステム／エッジデバイスの接続数は300億台

- IDC Japan は、世界 IoT (Internet of Things) 市場予測を発表した。これによると、世界 IoT 市場は、2013 年の 1 兆 3 千億ドルから、2020 年には 3 兆 400 億ドルに拡大し、2013 年～2020 年の年間平均成長率 (CAGR: Compound Annual Growth Rate) は 13%になると予測している。

IDC では、IoT を「IP 接続による通信を、人の介在なしにローカルまたはグローバルに行うことができる識別可能なインテリジェントシステム／エッジデバイスからなる、ネットワークを束ねるネットワーク」と定義している。IoT 市場のエコシステムの構成要素には、インテリジェントシステム／エッジデバイス、コネクティビティ、プラットフォーム、アナリティクス、アプリケーションがあり、さらに、それらに付随する専門サービス、セキュリティサービスも含まれる。なお、上記の「インテリジェントシステム」について IDC では、「高度なオペレーティングシステムを有し、自動的にインターネットに接続され、ネイティブアプリケーション／クラウドアプリケーションを実行し、センサーなどが収集した情報を分析する機能を持つ安全に管理された電子システム」としている。

数百億台の接続デバイスを通じて数兆ドルもの収益をもたらすと予測される IoT 市場に対し、様々な事業者が取り組みを活発化していることから、IoT は既に単なるパスワードでは

なくベンダーの将来的な成長を支える上での重要な実ビジネスになりつつあると IDC ではみている。今後も顧客ニーズを満たすべく、この新しい市場機会に焦点を合わせて様々な戦略がベンダーによって打ち出されると見込まれる。

米国 IDC シニアバイスプレジデントのバーノン・ターナーは「注力するビジネスの規模や種類に関わらず、世界中のあらゆるベンダーが IoT のもたらす市場機会に注目している。成熟度の観点からは未だ初期段階ではあるものの、IoT は政府、消費者、エンタープライズ分野における、またとないビジネスチャンスとなるであろう」と語っている。

世界の地域別の IoT 市場の傾向として、他の大陸と比較して国境が細かく分断されていない北米市場では、法規制や技術標準化のギャップというような阻害要因の影響が少なかったことから、IoT 市場の土台を早期に築くことに成功し、短期的には市場を牽引する立場にある。一方で西欧とアジア太平洋地域では、政府の指導やよりオープンな環境を重視す

る思想が後押しすることにより、IoT デバイスの普及台数が 2020 年までに北米を上回ると IDC では予測している。

米国 IDC バイスプレジデントのキャリー・マクギルブレイは「IoT 市場のエコシステムは特定の限られたプレーヤーが主導的な立場に立って成長させていくべきものではない。パートナーシップ施策、グループ形成、革新的なサービスの創出によって、真に価値のある IoT ソリューションが生み出されるであろう」と語っている。

その他にも今回の調査では、IoT 向けインテリジェンスシステム／エッジデバイスの接続数は 2020 年に約 300 億台に達すること、IoT 市場において成功を収めるには、ベンダー、サービスプロバイダー、システムインテグレーターが共存し、製品やソリューションを統合する必要があることなどが明らかになった。

### ● お問い合わせ先 ●

IDC Japan (株) セールス  
TEL : 03-3556-4761  
E-mail : jp-sales@idcjapan.co.jp  
URL : <http://www.idcjapan.co.jp/>